

令和7年5月26日

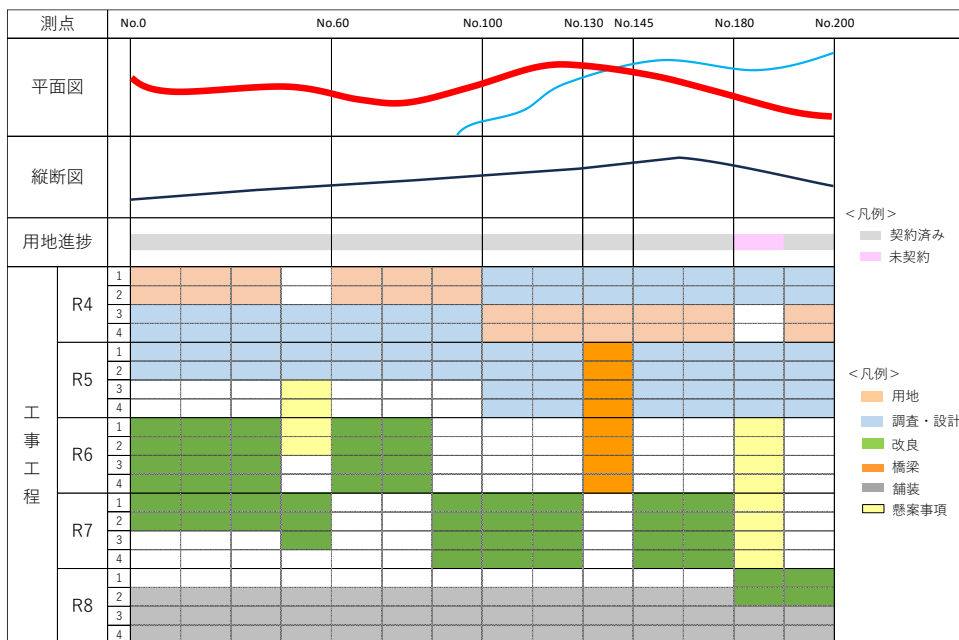
発注者責任を果たすための今後の建設生産・管理システムのあり方に関する懇談会
建設生産・管理システム部会(令和7年度 第1回)

資料2

データ連携による効率的な事業監理 の検討について

検討の背景 ～事業監理、工程管理の効率化～

- プロジェクト事業監理、工程管理はエクセル等で資料を作成し、担当者に(個人に)依存している(事業箇所、過年度成果、予算、将来計画等を記載。定型フォーマットはない)
- 工程管理に必要な資料を自動で作成するための情報を、関係者で共有することができれば、仕事が大幅に効率化(⇒CDE(共通データ環境)の構築)

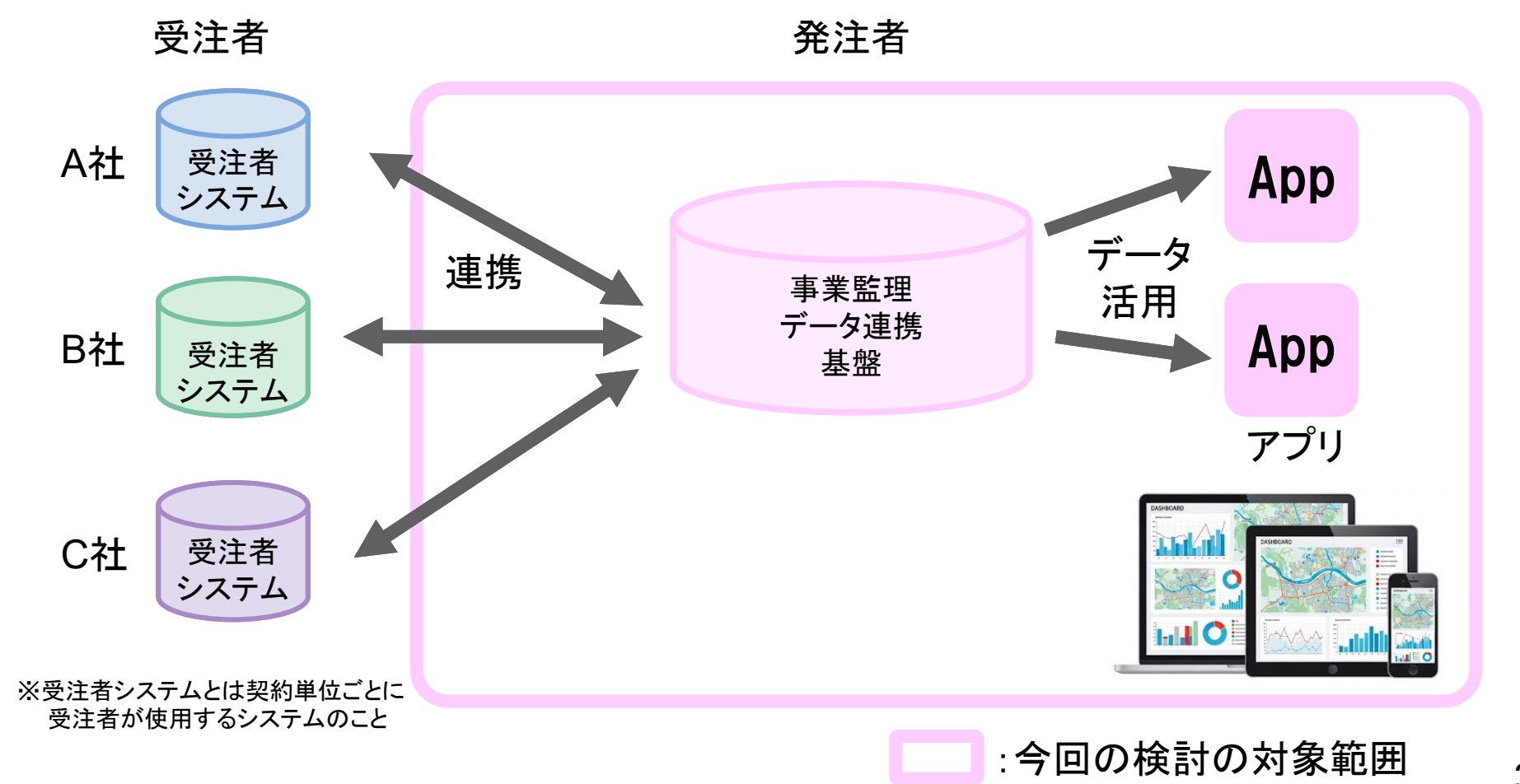


工事工程管理資料イメージ図

事業監理、工程管理に必要な情報(案)

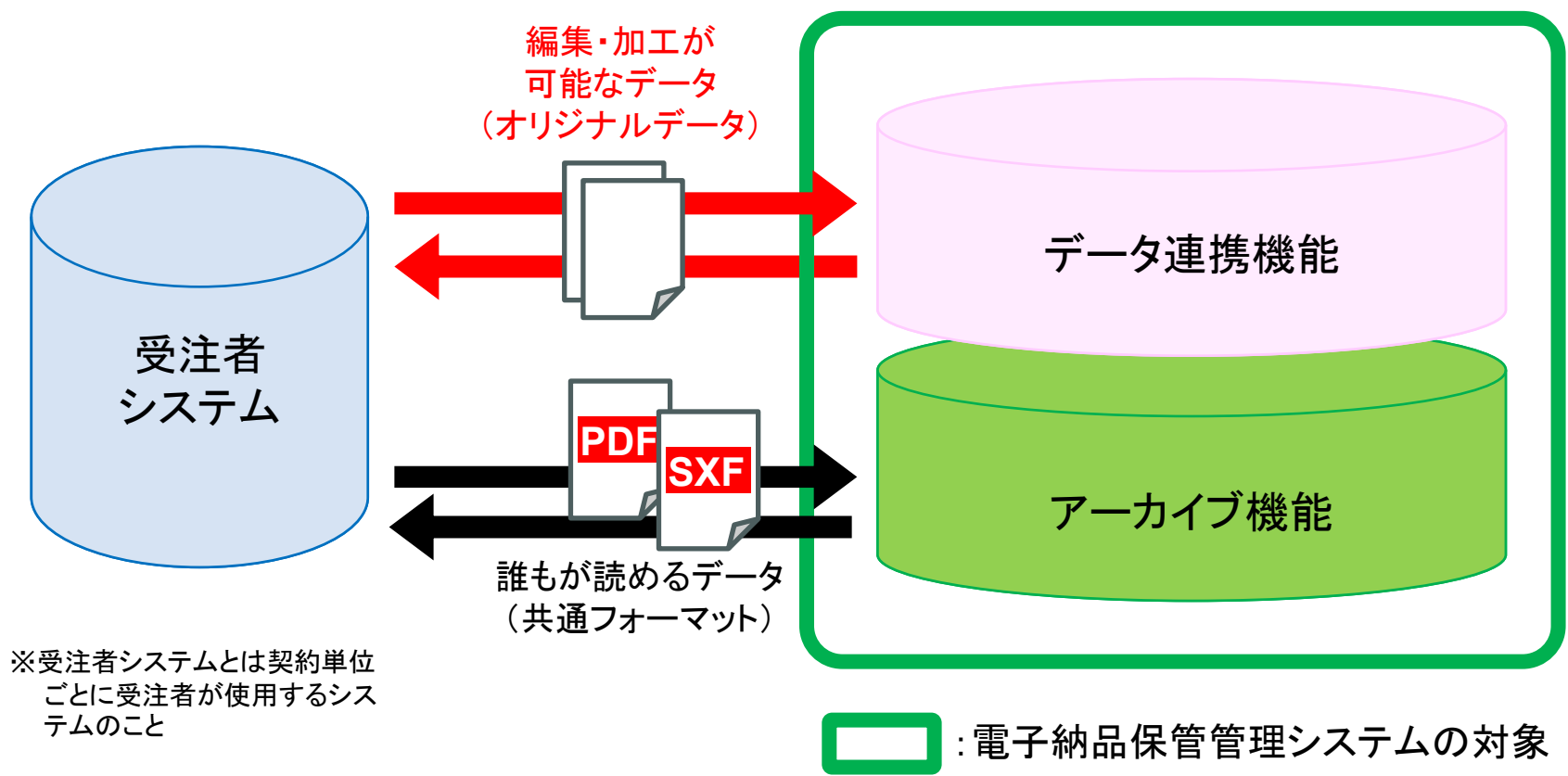
- ・ 過年度業務・工事成果
- ・ 業務・工事の履歴(詳細設計と修正設計の関係性、履歴等)
- ・ 関連する工事・業務の情報(業務と工事の紐付き等)
- ・ 地元等関係機関との調整状況
- ・ 用地関係

- 発注者が事業監理に必要なデータを集約・共有するための基盤（事業監理データ連携基盤）の整備していくにあたり、必要なデータや共有方法等について検討
- 検討範囲は、事業監理データ連携基盤そのものに加え、受注者のシステムとの連携方法や仕事の効率化につながるアプリの内容等を想定



- 現時点においては、課題はあるものの電子納品保管管理システムがデータのアーカイブやプロセス間のデータ連携の役割を担っている
- 事業監理データ連携基盤と電子納品保管管理システムの役割分担やあるべき姿については整理が必要

現時点における電子納品保管管理システムの役割イメージ



【議論内容(案)】

1. 事業監理データ連携基盤に蓄積するデータ及びその方法
 - ・事業に関連するデータは電子納品で納品されるデータで良いか
 - ・納品されないデータで残しておく必要があるデータはあるか
 - ・フォーマットは今のままで問題ないか
 - ・データの保管方法(フォルダ構成、メタデータ等)
 - ・現在進行形の事業のデータの取り扱い 等
2. 事業監理データ連携基盤を構築するにあたっての仕様
3. 仕事の効率化につながるアプリ開発について
4. その他

【進め方】

- ・ 検討会を設置し、関係者で議論し内容をオーソライズ
- ・ 検討会の下に作業部会を設置し、議論する資料を作成
- ・ 作業部会は必要に応じて複数設置(国交省以外の団体が事務局を担うことも想定)
- ・ i-Constructionモデル事務所等も活用し、実装に向けた課題の検討

【今後のスケジュール】

- ・ 第1回は6月頃に実施
- ・ 2回目以降は、議論内容1を対象に関係者が考える課題を提出いただき進め方を検討

- 事業監理におけるデータマネジメントを議論してきた「発注者懇談会」および「BIM/CIM推進委員会」のもとに、「事業監理データ連携基盤検討会」を設置
- 検討会のメンバーは、有識者・業界団体・国土交通省・都道府県で構成予定

